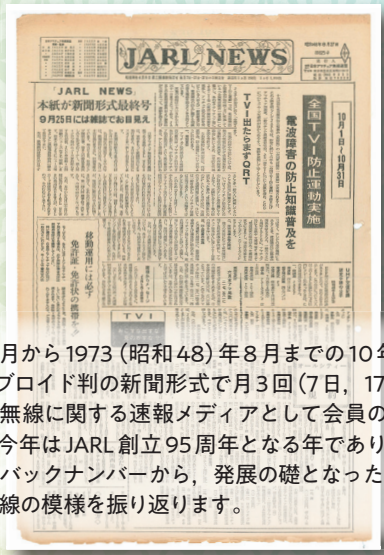
JARLとアマチュア無線の情報源として月３回発行
発展の礎となった時代をバックナンバーで振り返る

昭和38年２月７日
（257号）
タブロイド判の
第１号



昭和48年８月27日
（第625号）
タブロイド判の
最終号

1963（昭和38）年２月から1973（昭和48）年８月までの10年半にわたり，「JARL NEWS」はタブロイド判の新聞形式で月３回（７日，17日，27日）発行され，アマチュア無線に関する速報メディアとして会員の皆さまにご愛読いただきました。今年はJARL創立95周年となる年であり，近づく100周年を前に，当時のバックナンバーから，発展の礎となった1960～1970年代のアマチュア無線の模様を振り返ります。

タブロイド判「JARL NEWS」で見る 1960～1970年代のアマチュア無線

JARL NEWSのあゆみ

JARL NEWSは昭和４年６月に「J.A.R.L.ニウス」の名称で創刊されました。昭和６年12月からは活版印刷になり，その題字デザインは現在まで受け継がれています。日中戦争中の昭和16年５月には名称を「日本アマチュア無線連盟報」に変更。しかし真珠湾攻撃が起きた同年12月，第96号を最後に発行を停止しました。

戦後は昭和21年創刊のCQ誌に掲載が始まり，昭和27年からは謄写版印刷のJARL NEWSが発行され，昭和29年８月まで続きました（一時は活版印刷）。その後はCQハムラジオ誌にJARL NEWSを掲載し，別刷りを会員に配布する形式が昭和38年４月までおこなわれました。

そして昭和38年４月から昭和48年９月まで月３回発行の新聞形式となり，昭和48年９月から月１回発行の雑誌形式（現在は年４回発行）となりました。

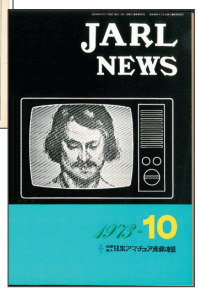
昭和４年６月10日
「J.A.R.L.ニウス」
No.1
創刊号は謄写版印刷で発行

昭和16年12月
「日本アマチュア無線連盟報」第96号
この号を最後に発行を停止

昭和38年２月７日
「JARL NEWS」
第257号
新聞化が図られ，毎月３回発行

昭和６年12月10日
「JARL NEWS」
第22号
この号から活版印刷になった

昭和27年９月
「JARL NEWS」
第136号
同年７月のアマチュア無線再開を伝える



昭和48年10月１日
「JARL NEWS」
1973年10月号
雑誌形式の第１号。以後は月１回発行

※この特集記事は掲載当時の元号（昭和）で表記しています。また周波数単位や官庁，団体，企業名なども原則として掲載当時の名称に準拠しています。

PART-1

タブロイド判「JARL NEWS」の紙面で見る 昭和40年代 JARLのトピック

昭和40年代（1965年～）は，JARLの新しい事業や会員サービス，アマチュア無線界の新たな動向への取り組みが始まった時期でもありました。昭和41年にスタートした養成課程講習会はハムを目指す方への門戸を大きく開くものとなりました。

また7Mc帯拡大キャンペーンに合わせた侵入電波調査はアマチュア無線家の結束を示す結果となりました（7MHz帯は約39年後の2009年3月，100kHzの拡大が実現し7000～7200kHzになりました）。

待望の 養成講習いよいよ実施

電信級移行は6時間でOK

コース名	講習の目的	講座時間(時)	受講料(円)
電話級標準	電話級アマ無線技士を養成する。受講資格に制限なし	40	2,000
電話級短縮	電話級アマ無線技士を養成する。選抜試験に合格した者に限る	20	1,200
電信級移行	電信級アマ無線技士を養成する。電話級有資格者で選抜試験に合格した者に限る。	6	1,200
電信級標準	電信級アマ無線技士を養成する。受講資格に制限なし	65	2,000
電信級短縮	電信級アマ無線技士を養成する。選抜試験に合格した者に限る。	22	1,200

長短三コースを開講

三月五日から東京の児童会館で

国家試験を受けず次の初級アマチュア無線技士になれる待望の養成講習がいよいよ三月五日から開講の運びとなる。初級は東京都荒川区児童会館で三つのコースが開講なるが，このうちもっとも在日を集めているのは電話級ラインセンスの保持者の電信級への移行コースである。次の三つのコースがあるが，会場の関係から各コースごとの定員は百名。

一，電話級標準コース（電話級アマ無線技士を養成するもので，受講資格に制限はない。受講時間は十四時間，受講料三千円）

二，電話級短縮コース（電話級アマ無線技士を養成するもので，受講資格に制限はない。受講時間は十時間，受講料二千円）

三，電信級移行コース（電信級アマ無線技士を養成するもので，電話級の有資格者で本連盟の選抜試験に合格した者に限る。受講時間は六時間受講する。受講料は二百円）このほか近く開講予定の電信級標準，電信級短縮コースの講習を受けることも可能になるとのこと。

事務局では将来，受講者の実力に応じて五つのコースを設け，全国的にこれらの講習を展開なるが，このうちもっとも在日を集めているのは電話級コースとなるとのこと。

今回開講する初級アマ無線技士の養成講習は，会員サービスの一環として本連盟が行なう選抜試験に合格した者に限る。

講習制度の全貌判明

JARL 良識ハム育成を目標に

修了試験は

講習の修了者に対し修了試験が行なわれることは，既報のとおりであるが，修了試験の実施は，電波法第六条の規定により，電波監理審議会の答申を待って，郵政大臣が定める。

修了試験の実施時期は，電波法第六条の規定により，電波監理審議会の答申を待って，郵政大臣が定める。

講師の資格は

電波通信局，一，二，三級陸上技士

国際電信局，一，二級無線技士

個人一級アマチュア無線技士

○電話級，一，二級無線技士

○電信級，一，二級無線技士

○NTSC放送技術者，一，二級無線技士

○電話級有資格者，一，二級アマチュア無線技士

講習期間は，次のようになっている。

○電話級アマチュア無線技士の養成

○電信級アマチュア無線技士の養成

○無線機器，無線，学二千円，国家試験，電信級，二千国

○電信級アマチュア無線技士の養成

○電話級有資格者，五百国，無線，学二千国

なお，国家試験は，電話級，電信級，無線，学，国内，電信級，電話級，無線，学，国内，電信級，電話級，無線，学，国内，電信級，電話

昭和42年2月7日（第397号）
「みんなで作ろうJARLの象徴」として連盟旗のデザインと連盟歌の歌詞を募集。旗は20作，歌は13作の応募があった

昭和42年5月27日（第408号）
連盟旗と支部旗には大阪府の大石正浩氏の作品が入選。連盟歌は佳作3点が決まったが採用には至らなかった

連盟旗のデザインと歌詩を

昭和8年の関西支部大会の記念撮影。高中で広げているのが当時の支部旗＝3TT湯浅栄敬氏提供

みんなで作ろうJARLの象徴

JARLの第七十六回定期理事会で、連盟旗のデザインと連盟歌の歌詩を広く会員から募集することに決定されたことは既報したとおりです。これについて次の要領で募集することに決定しましたので、ふるって応募ください。

みなさんに呼ばれるデザインで出来上がった連盟旗は、連盟の行事である総会、支部大会、各種の講習会、公開実験などを会場に掲げ、大いにアマチュア精神を高揚しようというわけです。また、連盟歌はアマチュア無線を讃え、アマ無線がキラキラ、には制限しないが、世間一般に使用されている便勝旗程度が最も好ましいのではなかろうか❾JARL旗製作の費用も考慮してデザイン応募のこと❿入選作の版権はいずれもJARLに属する。

一、募集作品
❶日本アマチュア無線連盟の旗のデザイン
❷日本アマチュア無線連盟歌

二、締切り日
四十二年四月十日必着

三、送り先
東京都豊島区巣鴨一一二六 日本アマチュア無線連盟「連盟旗募集係り」

四、審査
理事会が決定する。JARL歌歌詩については作詩家増田秀夫氏（紀元二千六百年の歌、作詩者）に参加を願い選考して決定する。

五、賞
JARL旗のデザイン、歌詩とも入選作品各一名、佳作各一名に記念品贈呈。

六、発表
本紙

七、注意
❶連盟旗は形、大

昭和43年3月17日（第436号）
入選したデザインをベースにしたJARL支部旗が決定

連盟旗と支部旗の入選作品

JARL OSAKA
Japan Amateur Radio League

JARL
Japan Amateur Radio League

色別される支部旗

完成したJARLの象徴

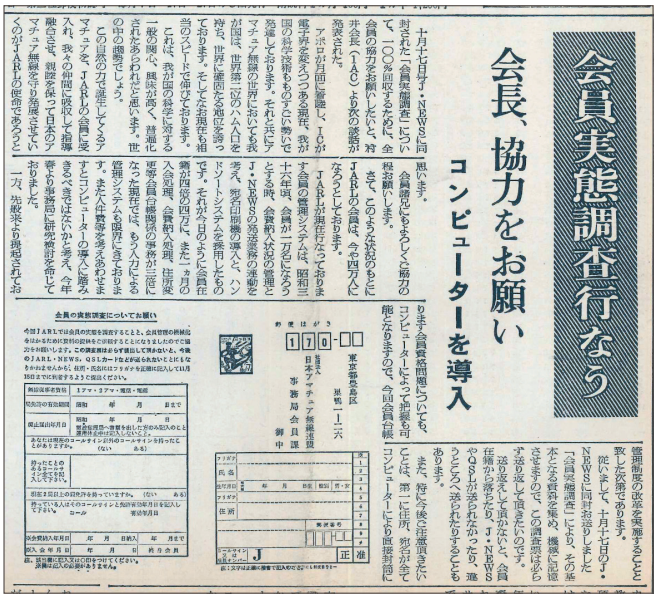
日本アマチュア無線連盟の各支部旗がこのほど出来あがった。これは昨年JARL・NEWS紙上でデザインを公募、応募作品の中から、大阪市の大石正浩氏の作品を一部で修正しも抜き、下に日本アマチュア無線連盟と各支部名を入れた。

JARL
社団法人 日本アマチュア無線連盟

TVI・BCI標語の入選

昨年十月募集したTVI・BCI絶滅の標語を審査した結果特選一点、入選三点、佳作六点が次のとおり決定した。

この標語の募集は、JARLがTVI・BCI絶滅運動の一つとして行なったもので、応募者八十一人で二百九十五点に及んだ。審査はJAATR、JAIAN、JAIASの各理事と協本事務局長三木欣氏、木曽課長の間で厳正に行なわれた。いずれ劣らぬ力作ばかりで、判断には相当苦しんだようだ。



会員実態調査行なう

会長、協力をお願い

コンピューターを導入

十月十七日付J・NEWSに同封された「会員実態調査について」の報告書により、一〇〇%回収するために、全会員の協力をお願いしたいと、神井会長（JAC）より次の談話が発表された。

アポロが月面に着陸し、ICが電子頭脳を使えつつある現代、我が国の科学技術もものすごい勢いでアマチュア無線の世界においても発展しております。それと共にアマチュア無線の世界においても、世界第二位のハム人口を誇り、世界に重要な地位を誇っております。そしてお現在も相当のスピードで伸びております。これは、我が国の科学に対する一般の関心、興味が高く、時遇化されたあらわれと思います。世間の関心ではないでしょう。

この貴重の力を活用してアマチュア、JARLの会員に受入れ、我々の仲間に吸収し指導融合させ、親睦を保つて日本のアマチュア無線を発展させていくのがJARLの使命であると思います。

会員諸兄にもよろしく協力の程お願いします。

さてこのような状況のもとにJARLの会員は、今で四万人になろうとしております。

JARLが現在行なっております会員の管理システムは、昭和三四年の時、会員が二万になろうとする時、会費納入状況の管理とJ・NEWSの発送業務の運動を考え、当時日刊機の導入と、ハンドートリストシステムを採用しましたのです。それが今日のように会員数が四倍の四万に、また二ヵ月の入会現員、会費納入処理、住所変更等会員に関係の事務が三倍に増えました現在では、もう人力による管理システムは限界に達しております。また人件費等を考えあわせますとコンピューターの導入に踏みきらざるをえないかと考え、今年融合会議を開いて日本のアマチュア無線を発展させていくのがJARLの使命であると思います。

一方、先般来より掲載されております会員資格問題についても、コンピューターによって把握も可能となりますので、今回会員名簿管理制度の改革を実施することと致しました次第であります。

従いまして、十月十七日のJ・NEWSに同封お送りしました「会員実態調査」により、その基本となる資料を集め、機械に記憶させますので、この調査票は必ず送り返して頂きたいのです。

送り返えして頂かないと、会員任命から落ちたり、J・NEWSやQSLが送られなかったり、違うところへ送られかねることもあります。

また、特定な後に注意出きないことは、第一に住所、宛名が全てコンピューターにより直接封筒に

昭和44年11月7日（第494号）
会員数が4万人に迫り，これまで人力でおこなっていた会員管理（会費，機関紙発送）にコンピュータを初導入。全会員に資格や局免許の有効期限を尋ねる実態調査を実施した

会員証の発行はじまる

現会員には、継続の際に有効期限は会費切れ月の翌月まで

JARLは会員数が四万人に達し、毎年会費納入者に対し、現会員については、無線局免許の発行、ほぼ同じ二年次会員に会費を納めるようにお願いする。

JARLは、会員証二種類（会員証用紙）を用意しました。一方は、現在会員であるかどうかを示すもの、一方は、会員証用紙（会員証用紙）を用意しました。

今年は、もちろんそれぞれ、この会員証用紙、年間、月ごとに、新しいものを発行しました。

この、用紙については、無線局免許の発行、会員証の発行、会費納入状況の管理、会員証の発行、会員証の発行、会員証の発行

アマチュアバンドを拡げよう

七一〇〇～七一五〇kc割当を—JARL

まずハムバンド内の放送排除へ

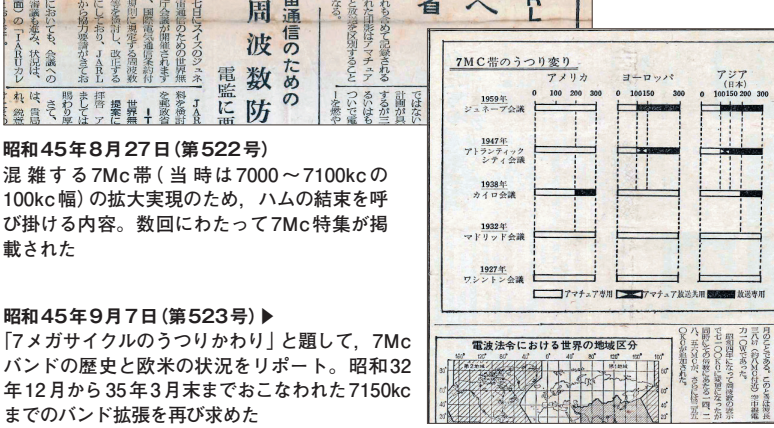
アマチュア局の協力を—郵政省

我が国の電波技術の発達とあわせて近隣諸国の無線局も整備され，活発に動き始めた。そのため，短波帯のハムバンドは電波状態の悪化による混信が多くなり，アマチュア局の例みは一段と深くなってきている。そのロ様も悪いとしかはMU滑である。この周波帯は，初心者にとっても比較的安全で使いやすく，また，ベテランにとっても魅力の多い活きいバンドである。そのため，低バンドの局がひしめきあい，外国はおろか国内電信でさえ混信に苦しいのが実態である。この現状を改善するためには，ハムバンドを拡張するか，あるいは，MU滑でもっと高い周波数帯を使用するか，いずれにしても，電波管理局，無線通信局，鉄道局，上海長崎局，JARL幹事長，AAA協会，AS，国際電信電話，NHKの三国認理事，他三大業務関係局の関係者が出席して協議会がもたれた。

郵政当局では，七MU帯の周波数には平素から多くの混信があるとJARLの要望に法定の波長とは非常に強力な電波をとって発足されているから，問題数明りは国際会議で決定されるので，早良政府の独能と周波数指定をかけよう。

七MU帯は，ハムバンドとして，ハムバンの歴史と，ハムバンドの状況，JARLの動向，郵政当局の考えなどを詳しくリポートした。

昭和46年2月7日（第538号）
7Mcバンド内の侵入電波（外国の放送波など）実態調査のため，1月18日22時から翌朝5時まで日本のハムが一斉に停波。測定は大成功を収めた



七メガサイクルのうつりかわり

多くのハムに愛されてきた伝統あるバンド

わが国初の国際交信

実験局として発許なる

7MC帯のうつり変り

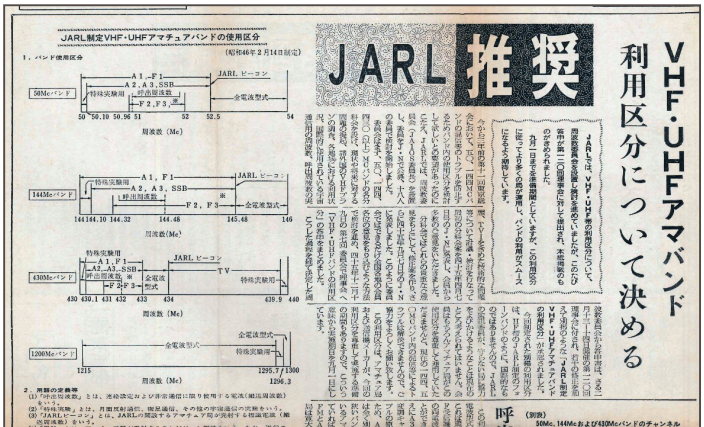
	アメリカ	ヨーロッパ	アジア（日本）
1959年 ジュネーブ会議	0 100 200 300	0 100 150 300	0 100 150 200 300
1947年 アトランティックシティ会議			
1938年 カイロ会議			
1932年 マドリッド会議			
1927年 ワシントン会議			

アマチュア専用　アマチュア放送共用　放送専用

電波法令における世界の地域区分

昭和45年8月27日（第522号）
混雑する7Mc帯（当時は7000～7100kcの100kc幅）の拡大実現のため，ハムの結束を呼び掛ける内容。数回にわたって7Mc特集が掲載された

昭和45年9月7日（第523号）▶
「7メガサイクルのうつりかわり」と題して，7Mcバンドの歴史と欧米の状況をリポート。昭和32年12月から35年3月末までおこなわれた7150kcまでのバンド拡張を再び求めた



JARL推奨

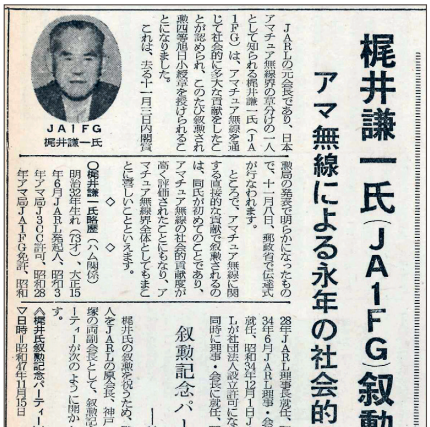
VHF・UHFアマバンド利用区分について決める

JARL制定VHF・UHFアマチュアバンドの使用区分

（昭和46年2月14日制定）

呼出周波数は八五、一四四、四三二MC

昭和46年3月27日（第543号）
混信防止と周波数有効利用のため「VHF・UHFアマチュアバンドの使用区分」を策定，40kc間隔のFMチャンネルとチャンネル番号とともに同年9月からの実施が決まった



梶井謙一氏（JA1FG）叙勲の栄誉

アマ無線による永年の社会的貢献に対し

JAIFG
梶井謙一氏

JARLの会長であり，日本アマチュア無線界の古参の一人として知られる梶井謙一氏（JA1FG）は，アマチュア無線を通じて社会的に多大な貢献をしたとする直接的な賞賛を受賞することが認められ，この度叙勲されることになりました。これは，去る十一月三日開賞と言いのことといえます。

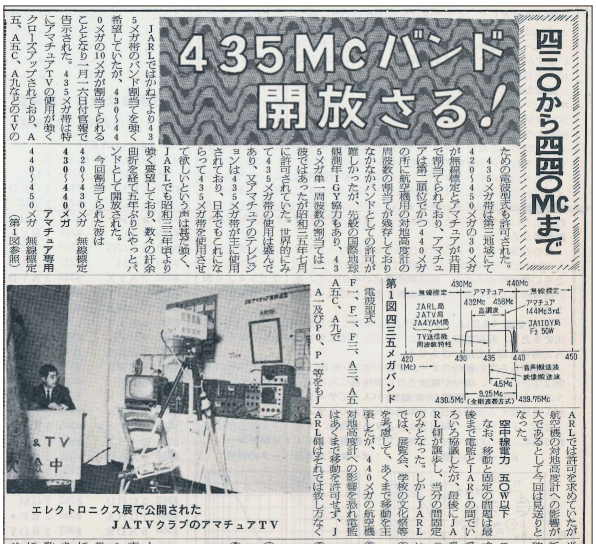
◇　◇

○梶井謙一氏略歴（八八陽氏）
明治32年生れ（73才）、大正15年6月JARL発足入、昭和3年ア無局JA3CC許可、昭和28年ア無局JA1FG免許、昭和43年5月JARL会長就任、昭和34年6月JARL理事、会長に就任、昭和34年12月JARL理事を退任、なお、昭和42年1月JARL理事を退任、昭和42年に法人設立許可になると同時に理事・会長に就任、昭和43年5月JARL会長を退任、昭和42年JARL理事を退任、なお、昭和32年財団法人設立許可になると昭和42年に法人設立許可になると同時に理事・会長に就任、昭和43年5月JARL会長を退任、昭和42年JARL理事を退任、なお、昭和32年財団

PART-2

新バンド開放，新モード許可…
発展するアマチュア無線界

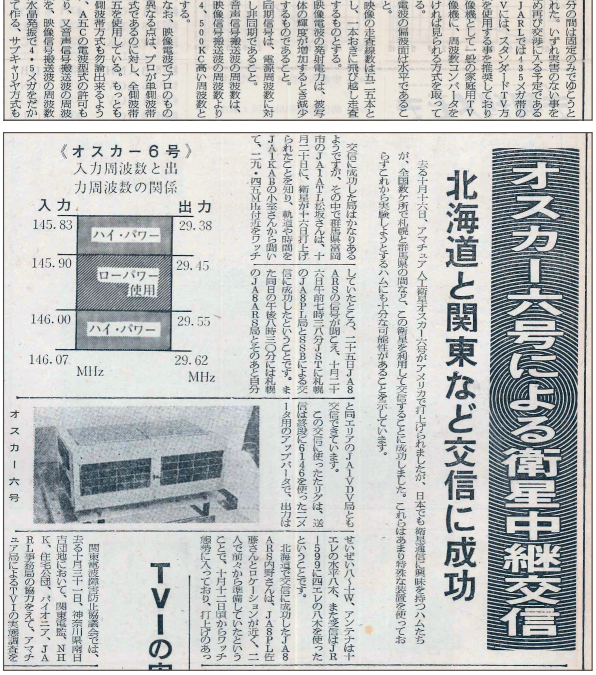
JARL は戦後のアマチュア無線再開当初から，バンド拡大に向けて努力を重ねてきました。昭和 39 年にはそれまで単一周波数（スポット）の割り当てだった 435Mc が 430 ～ 440Mc の 10Mc 幅になったほか，160m バンドで初めて 1880kc のスポット割り当て（期間限定，1 アマのみ）を獲得。その後は徐々にバンドが拡張していきました。またオスカー 6 号による衛星通信の成功，SSTV の免許など，アマチュア無線界の発展を印象づけるニュースもありました。


四三〇から四四〇Mcまで
435Mcバンド開放さる！

◀昭和39年1月27日（第291号）
同年1月16日付けの官報で，アマチュア業務に430～440Mc（固定局運用のみ）の割り当てが決定（これ以前は昭和35年7月に435Mcの単一周波数のみ許可されていた）。ATVへの期待が広がった

期待されるトップバンドの成果
待望の1.8Mc開放
ロラン妨害に気をつけて—電監
13年にわたる努力みのる—JARL
九州支

▲昭和39年4月17日（第299号）
JARLの13年越しの努力が実り，同年4月4日付けで初めて1.8Mc（1880kcのスポット割り当て，1アマのみ）が期間限定で許可された


オスカー六号による衛星中継交信
北海道と関東など交信に成功
《オスカー6号》入力周波数と出力周波数の関係
SSTV免許さる
四月十日付で二四局に
電波型式はF5を指定

昭和47年11月17日（第601号）
同年10月16日に米国でアマチュア衛星「オスカー6号」が打ち上げに。搭載された2m→10mの中継器を使ってJAのハム同士が初の衛星経由の交信に成功した

昭和48年4月27日（第613号）
同年4月10日付けで，申請中の24局に対してSSTVの免許が初めて発給されたことを速報

PART-3

「ハム」への理解が深まるきっかけに
社会の動きとアマチュア無線

戦後，米国の統治下にあった小笠原諸島と沖縄の返還，大阪万博や札幌オリンピックの開催など，社会の大きな動きに対し，JARL は機敏に対応していきました。また，アマチュア無線がテレビ番組で取り上げられる機会が増え，アマチュア無線のラジオ番組が毎週放送されるなど，一般の方に「ハム」の理解が深まるきっかけが多くなったのもこの時期の特徴と言えるでしょう。

ハムの技能講座をテレビで放送

一月四日から四月一日まで 火金の 午後七時半から三〇分 NHKの3チャンネルで

本連盟では新春の四日から四月一日までの三ヶ月間，毎週火曜日と金曜日の午後七時半から八時までの三十分間，二十六回にわたってアマチュア無線の技能講座を放送することになりました。

この講座は初級アマチュア無線技士を対象に放送されるものですが，これからハムになろうと考えていられる方にもわかりやすく解説されるものです。

講師は神奈川大学教授大内正興，電波監理局無線通信部資格審査官内谷治郎，日本アマチュア無線連盟技術委員，CQ誌編集長晉田匡郎，同原口幸雄，同野口幸雄（以下略）

技術講座の放送風景

アマ無線，また人命救助
盲腸炎の少女を救
信越CLV—1VKC—新潟

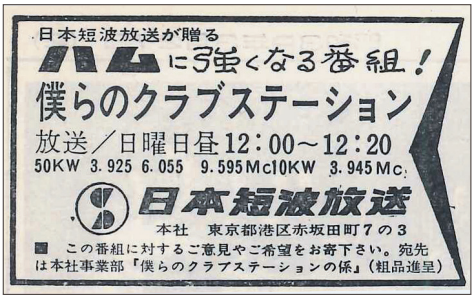
積雪で交通がしゃ断され，陸の孤島と化した新潟県魚沼郡高倉村能ノ袋部落。

月十日，分校の女子中学生が急性盲腸炎にかかり，一刻を争う生命の危機にさらされたやアマチュア無線のす低いリレーで，ぶじ手術を受けることに成功したことについてハムの二度目の活躍でアマチュア無線は，この地区住民からたいへんに感謝された。

この少女は島之内村能ノ袋地区（戸数十七）の保健婦さんに見てもらったところ，急性盲腸炎とわかった。

毎年十一月中旬から降雪のため，この村の唯一の交通機関である定期船も欠航，電話回線でも有名な奥只見湖を船で渡った奥起し，対岸の福島県奥岩郡落合村能ノ袋部落で，湯之谷村の保健婦さんに診断し開拓

昭和40年12月27日/41年1月7日（第359号）
NHK教育テレビで1月から3か月間，アマチュア無線の技能講座が放送されることを発表。左下には「アマ無線，また人命救助 盲腸炎の少女を救う」という記事も


日本短波放送が贈る
ハムに強くなる番組！
僕らのクラブステーション
放送／日曜日昼12：00～12：20
50KW 3.925 6.055 9.595Mc10KW 3.945Mc
日本短波放送
本社 東京都港区赤坂田町7の3
この番組に対するご意見やご希望をお寄下さい。宛先は本社事業部「僕らのクラブステーションの係」（粗品進呈）

昭和39年3月27日（第297号）▲
日本短波放送が毎週日曜日に放送していたアマチュア無線番組「僕らのクラブステーション」の広告

ハムを主役にした連ドラ
ハローCQ 撮影開始

やさしくよくわかる科学教育 出現 ▽第十話 竹くなエジソンなどが出て来上り，撮影は快調に進んでいる。放送予定日は四月第二週から毎週木曜日の午後六時三十分から三十分間。

YL、フィアンセの連盟でもこの連ドラに協力しているが，ご意見を岩波映画柿ノ木坂分室，勝田氏（電414—0107）へ伝えてほしい。

3・5メガ全ミーティン
★五月に仙台で
3・5MCマンの

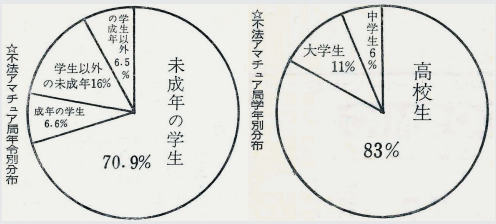
本ミーティングは，一前十時三十分より仙台域で会費五百円にて開る。参加資格には制YL、フィアンセの

<写真は「ハローCQ」のひとこま，国試受験のスナップ>

昭和39年3月17日（第296号）▶
同年4月に開局する民放テレビ局「東京12チャンネル」が，ハムを主人公にした連続ドラマ「ハローCQ」（羽仁 進監督，岩波映画制作）をゴールデンタイムに放送

「アンカバ白書」も掲載

タブロイド判の JARL NEWS にはユニークな記事も多数掲載されました。第 303 号には「アンカバ白書」と題し，関東電波監理局が公表した不法アマチュア局（免許を受けずに運用など）のデータを公開。摘発された 391 局のうち学生が 77% を占め，うち 83% が高校生であるというデータを掲載し注目を集めました。



昭和39年5月27日（第303号）「アンカバ白書」に掲載された，不法アマチュア局の年齢・学年別分布（昭和38年の関東電波監理局資料より）

昭和40年7月17日（第343号）
南極観測が恒久的におこなわれるようになったことから，JARLは南極にクラブステーションを設置するように関係方面と折衝を開始。これまでは参加する隊員が8J1プリフィックスの個人局を開設する形式だった

南極にアマ局設置決る

JARL アマ局設置に全面協力

（南極観測第一次隊でQSOをする1JG作間さん）

六月十九日と七月七日に決まったそれによるとアマチュア無線に関係のある人は、JA2RS佐藤和郎さん（四次越冬に参加）が参加する。そのほか通信関係で深川佑光さん、磯部武さんも、通信士の免許をもっているのでアマチュア無線をやなうことができる。

七月七日郵政庁において、南極関係の打合わせ会が開かれアマチュア無線局をもっていくことが正式に決まった。

JARLでは、今回から南極観測が恒久的に行なわれることを考慮して、南極にJARLのクラブステーションをもっていくように関係方面に接渉を始めた。

その理由は、越冬隊員は、一年おきに交代するので、そのたびに個人局として、アマチュア局を開くとその都度大変な手数がかかり、越冬する隊員にも負担がかかる。

もしクラブステーションをもっ

昭和40年9月27日（第350号）
JARLの要望が実を結び，昭和基地に社団局の設置が正式決定。「コールサインは8J1RLに決まる模様」と伝えている。運用は昭和41年からスタート

昭和基地に社団局

10月1日にJAREARC結成

南極の昭和基地にアマチュア局が設置され，JARLの社団局を恒久的に設置することが本決まりになった。

従来南極へ運用したアマチュア局は、個人局として運用してきたが、今回から昭和基地が恒久的な観測基地として開設されることになったので、毎年越冬する隊員に開局の手続などの負担がかからな

小笠原へDXペディ

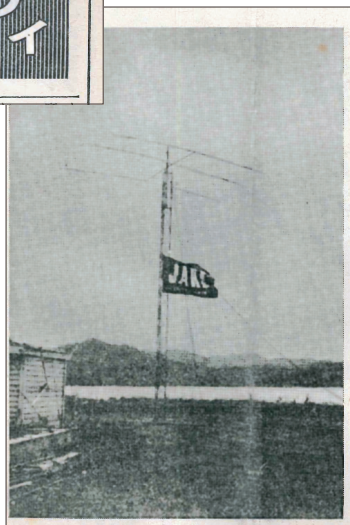
JARLより派遣団

JARLでは、小笠原のJD1新プリフィックスと、ニューカントリーを全世界に宣言し、AA、DXコンテストの第10回開催を記念して、小笠原父島にDXペディション派遣団を編成派遣することとなった。

ARRLのカントリーリストに小笠原と南鳥島が二つのカントリーとして掲載されることは日本領土内に三カントリーが存在することで、非常に意義が深い。JARLの歴史の一頁にいつまでも残ることであり、これを全世界に宣言することも意義のあることである。派遣団は八月二十五日東京を出発し、二十七日上陸、二十八日に外国向けと本土向けの第一声を出す予定。そして三十日、三十一日のオールアジアコンテストに参加、三日無線局の予定、周波数、出力、スケジュール等詳細は後刻発表するが、記念QSLも製作の予定。

なお、派遣団の人選は、実務理事連絡会で選考決定される。

昭和44年7月7日（第482号）
昭和43年6月26日に小笠原諸島が日本に返還され，翌年5月にARRLが南鳥島と小笠原諸島を2つの新カントリーとして認めたことから，JARLが「第10回オールアジアコンテスト」に合わせて父島へDXペディションを実施すると発表した



小笠原の海岸にひるがえるJARL旗

小笠原ペディ終る

貴重な足跡をのこす

このほどJARLから小笠原へ派遣された派遣団員たちは、無事九月四日、東京都庁の中央市場岸壁へ帰還した。多くの困難が予想されたこのペディが成功裏のうちに終り、「JDIの誕生」と「第十回オールアジアコンテスト」を一層意義深いものとした。

JARLはもとより、JARLが恒久的なペディションとしてJARLの社団局の運営に乗りのれた。その準備は慎重期待がかけられ、その準備は慎重に進められた。

小笠原への輸送機関の問題、長期的な問題等最大にあるが、今回の方々からの絶大な支援があり、すべて順調に進行された。

出発は最初八月二十五日の予定であったが、すべての事情を考慮して二日遅れの出発が決まった。折からの台風の通過で、出発が無事遅れたが、幸いにも八月二十四日は台風一過の晴天にめまれ、予定どおり船は岸壁を離れた。

次は航海のあらましです。

（二十四日）二十四時、大島に着く。風強く、風波もかなり大きな。海で、風と波が静まるのを待つ。

（二十五日）八時、大島を出発。三宅島沖でジャイロ風を拾う。十九時、八丈島通過。不連続線通過。うねり、微風が高くなる。

（二十六日）七時、鳥島通過。やはり微風。十八時、鳥島を出発。明るくなる。十八時、鳥島を出発。明るくなる。メイルが全滅見、トビ魚多し。

（二十七日）十八時父島着

小笠原DXペディ「報告、映写会」開催

於 豊島区民センター

派遣メンバー前列左より、9AG、1AEA、1KIS、1ZZ、後列左より3UI、1MIN、4BJO 1AYO

臨時支部大会
——関東

関東支部では、支部設立第十二条第三項の規定によりかねてより臨時支部大会を開催します。

記

日時 九月一二八日（日）十三時から

場所 東京都豊島区東池袋二の一〇の一〇 豊島区民センター内「文化ホール」（交通図参照）

・入場は無料ですが既存入員が二九〇名ですから、満員になり次第締切ります。

行事

一、会長挨拶

二、派遣団報告

三、記録映画（8mm）鑑賞

為に行なわれました「小笠原民センター内の文化ホール」で聞きます。

（九月一日）

十六時父島を出る。回もなくカツオ一匹釣る。

（二日）

十七時頃、鳥島に着く。波静か。

（三日）

七時頃、八丈島を通過。

十七時三十分、八丈島沖着。

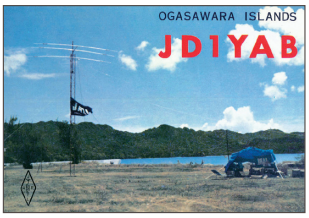
（四日）

四時、大島通過。船は揺揺のためレーダーを回しつばなし。魚後多く釣る。

十一時四十五分、中央市場岸壁に着く。

九二カントリー、約五〇〇局の交信が行なわれ、JA本土には、バンドによって往路往以上の成度で大勝した。VHF帯はコンディションが開けず、交信不能であった。また・九ペディション（の「報告、映写会」を東京都豊島区の「豊島区民センター」で

昭和44年9月17日（第489号）▶
同年8月24日に東京港を出発，8月27日〜9月1日に父島でJD1YABを運用し，9月4日に東京港へ帰着。92カントリー約5,000局との交信に成功した



小笠原DXペディション「JD1YAB」のQSLカード

万博でアマチュア局運用が

EXPO70にJA3XPO?

EXPO記念アワード

NZART会長 ZM2CD来訪

—万博関係初の客員ハム—

万博会場で混信調査中のJA3支部

昭和45年2月17日(第503号)
同年3月15日から半年間，大阪で「日本万国博覧会」が開かれることになった。JARLは設置場所等の問題から会場内の記念局設置を断念していたが，開幕2か月前になってサンフランシスコ市館からアマチュア局の開設依頼があり，同館内への記念局設置が決定した

さようならJA3XPO

三万六千局と交信

万国博一八三日の運用終える

関西支部無事その大責を果す

—73ミーティング—

「蜜の光」の大合唱で別れ

昭和45年10月7日(第526号)▶
サンフランシスコ市館に設置した「JA3XPO」の運用は大成功，およそ36,000局と交信する成果を収めて無事終了した

JA8IOC 順調なすべり出し

運用希望者は予約で受付けます

開局した記念局

開局式で祝辞を述べる北海道電波監理局長徳間敏致氏

運用希望の方は

次の要領でお申し

昭和46年9月27日(第561号)
昭和47年2月3日から10日間，北海道札幌市で「第11回オリンピック冬季競技大会（札幌オリンピック）」が開催。これを記念したJARL局「JA8IOC」が昭和46年9月1日から運用をスタートした

沖縄の新コールはJR6

五月十五日は記念コンテスト

会費の改

沖縄の海岸で移動運用するKR8YABアンテナが見える。本土復帰も近い。

昭和47年3月20日(第578号)▲
昭和47年5月15日に沖縄が日本に返還。「KR8」で運用していた沖縄のハムに新プリフィックス「JR6」の発給が決定。復帰記念コンテストの開催も決まった

JR6の運用始まる

5月15日より本土と同じ法の下で

〝移動範囲〟沖縄は

「全国一円」に含まれない

JARL発行アワードに沖縄の扱は

KR8時代のQSOも有効

昭和47年6月7日(第585号)▶
昭和47年5月15日から沖縄のハムが「JR6」プリフィックスで運用を始めた話題と，本土の局が沖縄県内で運用する場合の手続きを説明した